

平成29年度大学コンソーシアムやまがた第2回事業評価委員会議事録

日時：平成29年9月25日（月）13:30～15:12

場所：ゆうキャンパス・ステーション

出席者：委員長 布施 一明（山形大学）

委員 高橋 寛（羽陽学園短期大学）

瀬川 透（鶴岡工業高等専門学校）

中山 英夫（山形県立産業技術短期大学校）

遠田 達浩（山形県立農林大学校）→代理 廣野 直芳

高橋 亘（山形県立保健医療大学）

浜田 憲人（山形県）

欠席者：委員 松村 茂（東北芸術工科大学）

神田 直弥（東北公益文科大学）

佐藤 晃（東北文教大学・東北文教大学短期大学部）

鈴木 直克（放送大学山形学習センター）

佐藤 豊（山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学）

菅原 邦生（山形工科短期大学校）

陪席者：小座間優華理（山形県総務部学事文書課）

事務局：齋藤幸太郎、西田 靖子

会議に先立ち、事務局から出席者の変更及び陪席者の紹介があった。

議題

1 事業評価等アンケートの結果及び集約について

事務局から、資料1から資料4について以下の説明があった。

資料1について

- ・1頁、問1の表にある数字は14機関がどこにチェックしたかの数字である。
- ・2頁、問2は問1でチェックした理由等について、事業ごとに整理したもの。
- ・4頁、問3は、コンソーシアムの目的とこれまで行ってきた事業に対する各機関の考えを整理したもの。
- ・5頁、問4から問5は事業に対する各機関における満足度について整理したもの。ただし、満足度に関しては、山形県は立場上回答していないため13機関の回答となっている。
- ・8頁、問6は「負担金」の額について、14機関の数字である。
- ・問7はその理由で、問8は負担金に対する自由な意見である。
- ・9頁、問9は本コンソーシアムへ期待すること、問10は第3期事業計画策定に向けた意見となる。

資料2について

- ・資料1の中の各事業における「重要度」評価、[満足度]評価を数値化したもの。

資料3について

- ・資料2で数値化したものを、横軸に「重要度」評価、縦軸に「満足度」評価として評価図を作成したもので、各機関の数字を平均したものが「×印」として表示されている。各事業のアンケート結果については、この評価図を基に分析を行うことになる。

資料4について

- ・前回の会議で了承いただいた事業評価の方法等について再度提示したもので、今回は評価スケジュールを修正したものとなっている。

このことについて委員長から、説明内容に対する質問・意見等の有無について照会があったが、特に意見等はなかった。

2 事業評価報告書（案）の検討について

事務局から、資料5について以下の説明があった。

- ・これは、資料4の「平成29年度事業評価について」の中で示された「4事業評価のまとめ方」を2頁目にある「目次」に整理して、それぞれの内容を表した案である。

内容は、最初に「はじめに」、続いて「1. 平成29年度事業評価について」を掲載した後、2. 3をアンケート結果及び集計、4. を各事業の評価（事業アンケートの分析）、「5. 負担金について」の順にして、最後に「まとめ」として、今後の事業の在り方を含めた内容にしたいと考えた素案である。

各委員へは、「はじめに」、「4. 各事業の評価」、「5. 負担金について」及び「まとめ」について内容の検討を願いたいと考えている。

次いで委員長から、以下の補足説明があった。

- ・事務局から、事業評価報告書の素案を提案してもらったが、内容は平成24年度報告書に倣ったものとなっている。この内容でよいか検討願いたい。

1. 平成29年度事業評価について
2. 平成29年度大学コンソーシアムやまがた事業評価等アンケート集計結果
3. 平成29年度大学コンソーシアムやまがた事業評価等アンケート集計結果（数値化集計）

の3つは、今回の資料を整理したうえで報告書へ掲載したいが、4. 各事業の評価については、どのように整理するか。

参考までに、参考資料2「平成24年度の事業評価報告書」の32頁では、事業アンケートの分析として適合事業のうち、満足度評価が0.5以下の10事業についてのみ、評価理由を再掲してさらに分析をしていた。

- ・また、資料4「平成29年度事業評価について」の別紙2「事業アンケートの分析」では、「各事業のアンケート結果について、それぞれの評価図を基にして、分析を行う。」と明記しているので、全ての事業について評価コメントをすべきと考えているがいかがか。

このことについて、委員の意見を求められたが特に意見はなく、全ての事業について分析を行うことで了承された。

次いで委員長から、各事業の分析内容をどのように表記していくかについて、委員への意見聴取があり以下の意見交換があった。

(主な意見交換の内容)

- ・文章が長くてわかりにくかったので、重要なところを太字で書くなどしてもらいたかった。校内で時間をかけて回して意見を求めたがなかなか出てこなかった。事業ごとに細かく見て行って、一つひとつ上げるというのは筋ではあるが、最終的にはコンソーシアムが繋がっていくことができればいいのではないかというのが、今回のアンケートの趣旨だとは思いますが、その辺を明確に表記する形で伝えてもらえる校内の先生方にも伝わったのではないかと考える。難しいか。(中山委員)
- ・(自身が) 意味を取り違えているかもしれないが、前回の会議で各年度に行われた事業の内容を事業報告書として添付している。これ以上に詳しいものとなると難しい状況であるので、この報告書をよりどころとして行っていただくことが現時点での方法かと思われる。前回の事業評価報告書では、アンケートにある文章から分析に必要と思われる部分をピックアップして再掲し、その理由から本委員会ではこのように分析した、というようにまとめてもらっているようである。(事務局)
- ・平成24年度の事業評価報告書は非常によくできていると思う。比較するうえでも同様に作成することが良いと思うし、一つひとつの事業の分析が簡潔に良くまとまっていると思うので、平成24年度の構成、内容をベースに評価していくのがよいと考える。そのうえでお願いであるが、今回の評価は平成30年度の事業に向けて繋がるものだと思うので、分析のところで「継続していきたい」等の意思表示をして、継続するためにはこういった内容を付け加えるとか、この部分は削るとか、来年度以降の事業に繋がるように調整をして分析に表記してもらえればよいのではないか。(保健医療大・高橋委員)

以上の結果、委員長から、高橋委員の意見のとおり平成24年度に倣い、アンケートでもらった意見等を参考に、各事業について重要な点、見直す点など本委員会で意見をもらって案をまとめ、メール等でブラッシュアップして行きたい旨の説明があり、その方針で進められることとなった。

(各事業に対する分析意見は以下のとおり)

1. 高等教育山形宣言プロジェクト

- ・学生が企画して学生が主体となり行う事業で、コンソーシアムの方向に一番合うものと思われるし、成果も上がっている。課題として挙げるとすれば、山形中心となる傾向があるが、学生の主体を見ながら支援していくという形で、継続していければ良いと考える。この中では「学生の地域貢献」をキーワードとして入れてまとめられれば良いのではないか。(瀬川委員)

- ・満足度評価の理由は、2機関しか出ていないが。(委員長)
- ・満足度評価の意見が少ないのは、参加する機関の広がりが少ないからと思われる。また、逆に学生がもっと参加できるようなPR方法にして参加機関が多くなれば、満足度も上がってくると思われる。(瀬川委員)
- ・そのような内容も分析の中に入れていきたいと思う。地域的なこととか、参加する機関の学生が決まってくるなどPRの足りないところもあるだろうし、また、意見の中には枠を超えた学生の連携があった方が良くとありましたので、そのあたりも分析としてはあると思われる。(委員長)

2. やまがた夜話

- ・随分前から継続されており、定期的開催されているので、地域の認知度も上がってきているのかなと感じる。課題であるが、もう少し聞く層を広げられれば良いし、対象を絞った開催があっても面白い。(瀬川委員)
- ・山形大学から書かせてもらったのだが、時間帯のこともあり、元々一般市民、高校生及び大学生を対象とした夜話の趣旨ではあるが、学生が聞く時間帯となかなか難しいところがあるので、受講者層の開拓が検討課題かなと思っている。(委員長)

3. 男女共同参画

- ・講演内容が則していないという意見があった。(委員長)
- ・男女共同参画の分野は、女性の参加や社会貢献という世間で盛んに言われているので、これからも強く行っていかなければならないものであり、本コンソーシアムがリーダーシップを取ってやっていくべき事業であり、社会の要求も高いと考える。(瀬川委員)
- ・重要度や満足度も高くなっており、ダイバーシティなど盛んに言われていることでもあり、今後も継続という形にするのがよいと考える。また、講演内容が則していないというのは、基調講演の演題で有機ELなどがあったのを見たものと思われる。(委員長)

4. ビブリオバトル

- ・これは、評価表で「B」となっているもの。重要度は高いが満足度が-0.4と低い。重要度の意見に「高等教育の充実へ学生のスキル等向上の一手段として効果的に活用することは観点に沿う」とはあるが、反して、「幹事会で意義が問われ、平成29年度は実施しなかったように、これまでの実績から則していない」とある。(委員長)
- ・幹事会での話では、参加が一部の学生に限られていたということであったので、複数機関の学生が参加するという方向に事業を見直してもらえれば、必ずしもコンソーシアムの趣旨に則さないものではないなと思う。(浜田委員)
- ・事務局から補足説明いたします。コンソーシアムでもビブリオバトルは、高校生でも全国大会があるなど重要な事業と考えている。スタート当初は複数大学の学生の参加があったが、平成27年度、28年度と山形大学の学生のみ参加となっている。28年度に事業実施する前に主催機関である山形大学に一機関の学生のみ

であった場合には共催を見直すと伝えていたが、28年度も残念ながら山形大学の学生のみでの参加であったことから、29年度はコンソーシアムの事業から外したものである。(事務局)

- ・ビブリオバトル自体は、もう少しやり方を変えて連携できるような方式であれば、継続することになるのか。(委員長)
- ・趣旨は多分いいのだと思われるが、実態は参加者が少なくそぐわないということになると、コンソーシアムの事業として取り上げるというより、山形大学の学生だけでやるのであれば続けてやってもらうことで構わない。しかし、コンソーシアムが援助するというのであれば、実績を作ってもらってから再度要求をしてもらい事業にするという形にした方が良いと考える。(瀬川委員)
- ・参加者が山形大学の学生だけという経緯があって今年はずしたということなので、今後また、自発的に発展して交流など必要性が高くなった場合には、またコンソーシアムの事業として取り上げることとして、現時点では継続することは考えないで、一旦終了とする分析としたい。(委員長)

5. 小学生を対象とした体験型学習

- ・これまでは、「イヌワシふれあい体験！」ということで、意見としては「小学生を対象とした事業は大切である。」「受託事業を引き継いでコンソーシアムで取り組んだ事業だが、果たして大学間の連携をベースの取り組んでいるのか・・・」などが多数を占めている。このような体験事業はよいとは思いますがその内容が大学連携や知的資源による地域貢献になるように見直しが必要かと思われるのだが。満足度の方にもそのような意見があるので、その辺をピックアップして、見直しという観点で分析に上げたいと考える。(委員長)
- ・鶴岡高専の意見のように小学生を対象とする事業は大切であると思う。(県内の人が)地元山形に残ってほしいという願いがある。(保健医療大・高橋委員)
- ・新しいコンソーシアムの事業として、小学生をターゲットにした事業は必要と考えている。(瀬川委員)
- ・小学生を対象とした事業は、将来に向けて必要であることを言っただけで、目的にあった内容を検討してほしい、というような分析となるのではないかとと思われる。(委員長)

6. プロスポーツを活用した中山間地域活性化活動

- ・これも県の受託事業を引き継いで行っている事業で、前の5と同じように趣旨に沿うかという意見がある。また、満足度についても特定の地域で行っているということで、その地域の活性化や学生ボランティアの参加など一定の評価はできるが、一か所だけに偏っているという意見や、そのあたりで地域や内容を少し検討する必要があるのではないかと意見がある。(委員長)
- ・今回、山辺町大蔵地区の地域の活性化になっていると思われるが、地元の方の意見などはどうか。(廣野委員)
- ・まず、この事業(雪中棚田サッカー大会)にはモンテディオ山形のジュニアユースから2チーム参加してもらっており、中学生との繋がりはこの事業だけである。また、サッカー大会の開催には東北芸術工科大学から学生ボランティア10名程度

参加してもらい運営に携わってもらっている。地元の方は何もなかった冬の棚田にこういった若い人達が来てくれることに大変歓迎をしてくれており、今年6回目を終え、是非10回までは続けてもらいたいとの要望が出ているところである。ただ、コンソーシアムの事業として一地域だけに偏ってよいのかという意見やもう少し大学連携、学生交流に力を入れるべきとの話も出てくるかと思われるので、委員の皆様の意見が重要となってくると考える。(事務局)

- ・県内のプロスポーツは、モンテディオ山形だけではなくバスケットボールや酒田のバレーボールもある。必ずしもモンテディオ山形に偏る必要はないと考えるので、その辺をもう少し地域的に繋がりのある形で交流してもらった方がこの事業が発展するのではないか。(保健医療大・高橋委員)
- ・プロスポーツを利用したとなれば、ほかに種目もあるし地域性もありますので、交流を通してどれだけうまく連携できるか、という意見もあることを報告書へ反映していきたいと考える。(委員長)

7. 単位互換の推進

- ・単位互換については、コンソーシアムあつての事業ということで一番ポイントになるもの、中心になるものだと考えているので、継続することで良いと思う。実際の単位互換がどれだけ活用されているのかということとそれほど多くはないのかという思いはある。各大学でも積極的に取り組んでいってほしい。(瀬川委員)
- ・単位互換は、コンソーシアム発足当時の目玉なので、もう少し参加しやすいように離れていても遠隔講義など考えられるかと思うので、重要な事業として参加しやすい環境を改善しながら継続してってもらいたい、ということでしょうか。(委員長)
- ・単位互換というのは非常に重要な事業と思っており、県立保健医療大学でも実際に山形大学へ行って授業を受けたいと考えているが、駐車場の問題があり、うまい交通システムを考えるとかすれば、もっと需要が出て活発になるのではないか。その辺スクールバスを循環するとか、ICTなどを活用するなどもう一工夫あつてもよいのではないかと思う。(保健医療大・高橋委員)
- ・皆さんが重要な事業であるという認識でおられるようなので、これをさらに有効に活用できるような方策を考えて良くしていこう、ということで必要な位置づけとなる。(委員長)
- ・うちの大学は、厚生労働省が所管するので単位互換ができない。(中山委員)
- ・確かにそのような意見もいただいており、加盟機関すべてができるかとなるとなかなか難しいところである。(委員長)
- ・羽陽学園短期大学は、互換性がほとんどない。例えば、同じ科目名の教科(専門科目)であつても目指すところが違うため内容が全く違っている。従つて、他大学の取得単位を本学で認めてほしいと言われてもやり直しをしないと認めるわけにはいかないということになる。従つてこの事業は本学にとっては何の意味もなさないことになる。(羽陽短大・高橋委員)
- ・シラバスなど授業の内容で似たようなものでも(単位互換)ならないのだろうか。(委員長)

- ・例えば憲法など一般教養は別であるが、専門領域で資格に必要となる必修科目などに関しては、科目名は同じであっても中身が違うということが多く無理であり、履修し直しということになる。(羽陽短大・高橋委員)
- ・今回作ってもらったパンフレットには、ここで学ぶとこういう資格が取れるときちゃんと表記してもらった。その点は大変良かったと思っている。また、本校と庄内校と別に表記してもらったことにも感謝している。(中山委員)
- ・大事な事業であってもそのように互換性がないとか、そういう意見は残して改善できるかどうかということも分析として入れたいと思う。(委員長)

8. 大学等進学説明会

- ・県内高校生の県内大学への進学を促し、県内定着率への向上に寄与する有意義な事業であるといった意見、また、各校のPRになるということで重要性は高いとなっている。(委員長)
- ・本校は、アンケートにも書いたように平成25年度3校、26年度4校、27年度2校に参加している。これとは別に業者開催の進学説明会も結構来るので、そちらにも参加はしているのだが、これを見ると高校からあまり要望はないのかなと感じる。しかし、進学説明会の要望がこちらに伝わってきていることはありがたいことなので、今後とも継続してもらい参加したいと思う。民間主催の会に先生が参加した時に誰も聞きに来る人がいなかったと言っていたようだ。(中山委員)
- ・この事業は、高校の要望があっていくのか。(委員長)
- ・毎年、1月ごろに次年度予定としてコンソーシアムから県内の高校に照会を行い、日程と希望機関等を聞くようにしている。平成28年度は13校に各機関の先生方と出向いて説明会を行っている。内容は各機関の説明で終える場合と、説明のほかに実際にどのような講義が行われているか模擬講義を行うこともある。さらに、山形北高では保護者と生徒と一緒に聞くというケースもある。ただ、ネックとして山形東、山形西、山形南、新庄北、酒田東、鶴岡南及び米沢興譲館高といった進学校からの要望がないということである。(事務局)
- ・山形大学生の県内の定着率はどのくらいであったか、2割くらいか？出て行かないようにはできないものか。(中山委員)
- ・(県内定着については)就職条件とか県内企業の採用予定とか、また景気も大きく影響するので難しいところがある。(瀬川委員)
- ・この3月で終了したが、美しい山形を活用した「社会人力育成山形講座」というものを展開していたが、その中では地元のいろいろな地域の催しものを通して、学生にフィールドワーク授業を受けてもらったり、会社の社長に来ていただいて起業家の講義をしてもらったりと、他県からの学生にも山形の魅力を知ってもらう授業を行っていた。授業前と後ではやまがたに就職したいという割合が上がったことが確認できている。実際にそこで学んだ学生がどうしても山形に就職したいということで地元放送局へ就職したという例がある。山形大学でも今年から基盤教育の必修授業に「山形学」を取り入れて実施している。コンソーシアムでも単位互換ができないか確認したが、受入枠があつて難しいことがわかったということがあった。そういった授業を各機関でも行ってもらうと単位互換に繋がればよいと

思っている。(事務局)

9. やまがた高等教育職業フォーラム

- ・これはB評価となっており、意見としては各高校へのPRが遅かったとか、開催時期、集客方法に課題が残ったが、大学の魅力をブース展示により視覚的に魅せることは挑戦的な試みであったと評価できるとあり、また、満足度では、趣旨は理解できるが実施の方法に問題があり、練り直すべきだと思う。PRの方法というところである程度見直しが必要であろうということになっている。(委員長)
- ・(本事業は)高校生をターゲットにということだと思うが、一つのやり方としては芋煮会のようなイベントと抱き合わせて行う方法があるのではないか。もう一つは、進路を考えてほしいという趣旨があると思うので親もターゲットにしてはどうかと考える。人を集めるのに単独の事業では難しいと思われるので、例えば夏に行っている「科学の祭典」など別のイベントと組み合わせる方法もあるのではないか。(瀬川委員)
- ・今回は、PRや集客の手段がまずかったというところで、まずは人を集める方策を考えるとということで、方向性としては見直しをして、進学を見据えた事業ということであれば重要な事業であるので、企画をしっかりと考えてもらうという形になると思われる。(委員長)

10. 全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム参加

- ・全国の先進事例や活動状況を知る機会であり、調査結果を活動に活用していくべきである。フィードバックして共有すべきである。といった意見があるので、フィードバックできる仕組みにしてもらうということになろうかと思う。(委員長)

11. 広報リーフレットの作成

- ・広報は大切である。加盟校の特徴が簡潔にまとめられている。また、リーフレットやホームページは当校独自のものと併せて、多くの方に関心を持ってもらう機会と考えている。といった意見のように好評価が得られているようなので、引き続き継続するという形で良いと思われる。

12. ホームページの管理・充実

- ・広報は大切である。広報活動の成果として、HPのアクセス数や認知度向上の成果は出ているのか、事業報告等に説明があってもよいのでは。といった意見をもらっているので、この内容を事業報告書に触れてもらえればと思う。(委員長)

13. ゆうキャンパス・ステーションの充実

- ・ゆうキャンパス・ステーションがどこにあるか、もっとわかり易くできないものか。HPなどにすぐわかるものを表示してもらえればよいのではないかと考える。また、場所が変わると聞いている。(中山委員)
- ・場所のことだが、平成32年4月から山形県生涯学習センター「遊学館」へ移転の予定であり、幹事会、総会でも承認されている。移転まで2年半あるが準備を進めているところである。(事務局)
- ・移転までまだ2年半あるということであるが、ここ(ゆうキャンパス・ステーション)のPRも進めてもらいたい。(委員長)

14. PR用コンソーシアム名入付箋紙の作成

- ・意見としては、PR用グッズもコンソーシアム参加大学に委託して作成してはどうか。満足度の方では、利用実績がない。PR用としては少し弱い、加盟機関からPRグッズを募集しては。といった意見があります。付箋紙は3年分作るので在庫はまだあるようだ。(委員長)
- ・(付箋紙には大学コンソーシアムやまがたと)名前しか書いてないので、連絡先やURLを入れればよかったのではないかと。(瀬川委員)
- ・そもそも大学コンソーシアムやまがたとは何なのかを明確にしてPRするのがよい。(中山委員)
- ・大学コンソーシアムやまがたとは何なのか、PRの仕方でしょうか。在庫がまだあるようなので、次回PRグッズを作るときには今いただいた意見や、加盟機関でアイデアを出し合うなど考えてもらうことにしたい。(委員長)
- ・そのほか、PRとして記者クラブを利用することも考えられる。(中山委員)
- ・イベントによっては、記者クラブへの投げ込みも行っている。(事務局)

そのほかの意見

- ・農林大学校さんのイベントなどは、どのようにPRしているのか。(中山委員)
- ・各市町村の広報や農業新聞など特殊メディアへの直接の投げ込みなどを行っている。(廣野委員)

次いで目次の5. 負担金について、委員長から負担金については、コンソ事業へのかかり度合い、機関の規模及び距離的な問題など、複雑な事情がからんでいるため妥当かの評価が難しいと考えている。本委員会としては、今回アンケートの意見を踏まえながら、委員の方から意見をもらって後ほど委員長(案)としてまとめ、皆様に提示し、修正していく形にしていきたいと考えるので意見を伺いたいとの話があり、以下の意見交換があった。

(意見交換の内容)

- ・お金のことはなかなか微妙な問題があり、本校も年々予算が削減されており、その中から(負担金を)絞り出すのは大変かなと感じている。従って、金額に見合う成果が出れば文句は出ないのではないかと考えるが、その辺の兼ね合いは難しいと思う。それから事業の見直しについて、いまは定額負担金を集めているが、この事業に係る予算はいくらとして、積み上げた額を負担金として徴収することはできないか。この場合、年度により額に変動が生じて難しいこともあるが。(瀬川委員)
- ・お金のことは非常に重要だとは思っているのだが、本学も非常に苦しくて県からの交付金以外に自前で集めるように言われている状況である。HPのバナー広告などもこれから検討していこうとしている。また、封筒に企業の広告を入れることや企業協賛のセミナー開催など一つの手段として考えているところである。これからは、もらうだけでなく自ら稼ぐことも必要なのではないかと考えている。(保健医療大・高橋委員)
- ・負担金については各機関でいろいろと事情があると思うが、県の負担金を考えた場

合は、先ほど事業に係る予算を積み上げて、毎年柔軟にというような話があったが、県の予算要求を考えた場合には、予算が増えた時の説明が非常に難しいものがあるなどと思ったところである。(浜田委員)

- ・本学なども現在は山形大学から学長に迎えたので、ある程度の理解はしてもらっているが、それ以前は生え抜きの方が学長をしており、その前は経営者としての理事長が学長を兼ねていたため、理解が薄かった。ジャンルが異なるいろいろな学校が集まって行くことに割が合うのかという経営者感覚で話をしてきた。従って、応分の成果が出るように話し合いの中でやっていければよいと考えている。例えば、これ(P R用付箋紙について)は狙いがよくわからないし、サービスになっていない。大学コンソーシアムやまがたは看板になっていないのに、自己満足で使われるようならもったいないと感じている。(羽陽短大・高橋委員)
- ・負担金については、資料1の8頁に書いたように学生数に応じて本校と庄内校に分けて負担するようにしてもらえたので感謝している。(中山委員)

次いで委員長から、「まとめ」を担当する委員の照会があったがいなかったため、委員長が素案を作成することとした。

また、報告書については、委員長として今回ご検討いただいた内容を整理したうえで、報告書(案)をメールで委員に送り修正を重ねて、第3回事業評価委員会の席で最終決定をしたい旨の説明があり、議事の2を終了した。

3 その他

委員長から今後の日程について、事業評価報告書(案)を作成後に委員へ送ると共に、次回の日程調整をする。なお、早ければ10月10日(火)の週に行いたいと考えているとの話があった。

最後に、事務局から報告書(案)の作成について質問があり、以下のとおりとすることで確認された。

- ・平成24年度の報告書に倣うということになったが、各事業における重要度の意見及び満足度の意見から、どれをピックアップするとの話し合いがなされなかったため、委員長がその案を事務局と相談して作成する。また、事業の分析として本日の委員会の意見を整理して書き込み案とする。

以上、委員会終了。

【配付資料】

- 番号なし 事業評価委員会名簿
- 第1回事業評価委員会議事録（平成29年7月19日）
- 資料1 事業評価等アンケート集計結果
- 資料2 事業評価等アンケート数値化集計結果
- 資料3 事業評価等アンケート（重要度と満足度の比較）
- 資料4 平成29年度事業評価について
- 資料5 報告書（目次）
- 参考資料1 大学コンソーシアムやまがた会則
- 参考資料2 平成24年度事業評価報告書（平成25年2月）

議事録署名人

山形大学教育・学生支援部学務課長

布施 一 明 